

平成9年(1997年)1月1日発行



神馬 敬 学長

皆さん、明けましておめでとうございます。本学園の母体となった東京工科大学の創設から数えて九十年目の良き年をむかえました。六十周年を記念して設立された日本工業大学にとっても三十年の節目に当たります。本学の研究活動は昨年も大変活発でした。連続構造材改質の研究の国家プロジェクトへの採

頌春

学園創立九十周年を迎えて

皆さん、明けましておめでとうございます。本学園の母体となった東京工科大学の創設から数えて九十年目の良き年をむかえました。六十周年を記念して設立された日本工業大学にとっても三十年の節目に当たります。本学の研究活動は昨年も大変活発でした。連続構造材改質の研究の国家プロジェクトへの採

皆さん、明けましておめでとうございます。本学園の母体となった東京工科大学の創設から数えて九十年目の良き年をむかえました。六十周年を記念して設立された日本工業大学にとっても三十年の節目に当たります。本学の研究活動は昨年も大変活発でした。連続構造材改質の研究の国家プロジェクトへの採

皆さん、明けましておめでとうございます。本学園の母体となった東京工科大学の創設から数えて九十年目の良き年をむかえました。六十周年を記念して設立された日本工業大学にとっても三十年の節目に当たります。本学の研究活動は昨年も大変活発でした。連続構造材改質の研究の国家プロジェクトへの採



参加41校中、初の総合優勝を果たした陸上競技部員たち

本学のソーラーカー第1号車
タイ国との交友にひと役!!

——技術の高さが沿道の人々に感銘——



本学のソーラーカーを先頭に競技場を走るパレード

タイのキングモンクット工科大学(KMITT)のアカデミックエキジビションが十一月十四日(十八日の五日間)行われた。今回は、国王在位五十周年、KMITT三十六周年(タイでは十二年毎に区切られる重要な年)の記念すべき年であり、特に盛大に実施された。

タイのキングモンクット工科大学(KMITT)のアカデミックエキジビションが十一月十四日(十八日の五日間)行われた。今回は、国王在位五十周年、KMITT三十六周年(タイでは十二年毎に区切られる重要な年)の記念すべき年であり、特に盛大に実施された。

タイのキングモンクット工科大学(KMITT)のアカデミックエキジビションが十一月十四日(十八日の五日間)行われた。今回は、国王在位五十周年、KMITT三十六周年(タイでは十二年毎に区切られる重要な年)の記念すべき年であり、特に盛大に実施された。

タイのキングモンクット工科大学(KMITT)のアカデミックエキジビションが十一月十四日(十八日の五日間)行われた。今回は、国王在位五十周年、KMITT三十六周年(タイでは十二年毎に区切られる重要な年)の記念すべき年であり、特に盛大に実施された。

タイのキングモンクット工科大学(KMITT)のアカデミックエキジビションが十一月十四日(十八日の五日間)行われた。今回は、国王在位五十周年、KMITT三十六周年(タイでは十二年毎に区切られる重要な年)の記念すべき年であり、特に盛大に実施された。

タイのキングモンクット工科大学(KMITT)のアカデミックエキジビションが十一月十四日(十八日の五日間)行われた。今回は、国王在位五十周年、KMITT三十六周年(タイでは十二年毎に区切られる重要な年)の記念すべき年であり、特に盛大に実施された。

関東理工系大学対抗で
陸上部が総合優勝の栄冠!!

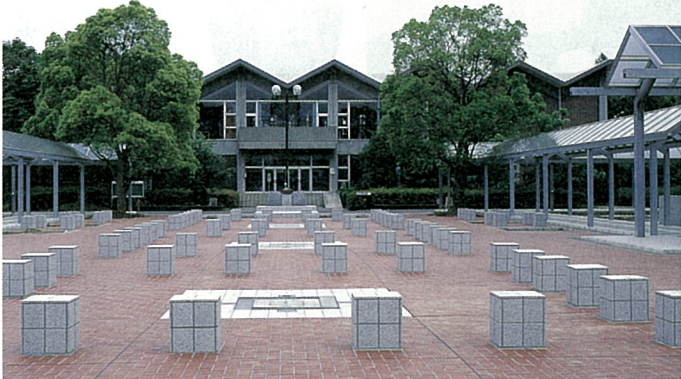
十一月十六日、十七日の二日にわたって開催された「第二十八回関東理工系大学対抗陸上選手権大会」で、本学の陸上競技部が、みごと初回の総合優勝に輝いた。

十一月十六日、十七日の二日にわたって開催された「第二十八回関東理工系大学対抗陸上選手権大会」で、本学の陸上競技部が、みごと初回の総合優勝に輝いた。

即戦力のエンジニアを育成する
工業高校生の学園

学部	学科(定員)	願書受付	試験日	合格発表
工学部	機械工学科 (200名)	1月10日	2月12日	2月20日
	電気電子工学科 (200名)			
	建築学科 (200名)	2月6日	2月13日	
	システム工学科 (160名)			
	情報工学科 (140名)		2月14日	

●お問い合わせは●日本工業大学 教務課入試係
〒345 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1 ☎0480-33-7507(直)



平成9年度一般入試

平成8年度の施設整備費補助金 研究設備整備費等補助金が内定!!

平成8年度私立学校施設整備費補助金及び私立大学研究設備整備費等補助金の交付が、以下の通り内定した。

★私立学校施設整備費補助金

★教育装置(情報)

「マルチプラットフォーム情報教育システム」→情報技術センター長/樺澤教授(事業経費)一八八、〇六九、〇〇〇円/補助金内定額一七九、二二〇、〇〇〇円

本システムは、一般情報リテラシー教育から専門分野(機械工学、電気・電子工学、建築学、システム工学)における高度情報活用能力の育成までを、一つの教育環境で実現することを目指している。

★学内LAN

「日本工業大学教育研究用LAN装置」→情報技術センター長/樺澤教授(事業経費)一八九、三七六、八五八円/補助金内定額一八〇、〇〇〇円

幹線部分の光ファイバー化とATM方式の導入を行い、ネットワークの高速化の第一段階を実現し、また、今回の工事によって、幹線部分の屋外配線を地下埋設とする。

★私立大学研究設備整備費等補助金

★研究設備

「プラズマ計測用レーザー分光装置」→電気電子工学科森宮教授(事業経費)一三七、〇三七、九五五円/補助金内定額一三、二二〇、〇〇〇円

プラズマの特性を理解するには、欠くことの出来ない放電プラズマ中の銅原子

密度やシリコン原子密度などを、正確に測定するために計画された装置である。この三件以外にも、情報処理関係設備の「今年度継続分」として電子計算機システム(VAX4000システム)も、補助対象となっており、事業経費一四一、二二〇、〇九四円/補助金内定額一五、五七〇、〇〇〇円

本学の研究設備がまた一段と充実する。

工業技術博物館のPR誌「機械の劇場」創刊

本学が誇る工業技術博物館では、一般市民をはじめ、中・高校生などに、より親しんでもらえる施設運営をめざして、さる十一月二十日、収蔵物にまつ技術の中・高生などに、より親しんでもらえる施設運営を「機械の劇場」を創刊した。体裁は、A4版二〇ページでカラー刷り。第一号は、特集テーマに「動力」をかげ、人気の蒸気機関車2109号

とレヒートガスタービンを中心に、その技術の進展を紹介している。

ちなみに前者のSLの項では、鈴木昭館長、動態保存に大きく寄与されている付属高校の大石和太郎氏に加えて、世界の鉄道事情に詳しい小池滋(東京女子大教授)と専門誌「レイルマガジン」編集長の名取紀之の両氏をゲストに、座談会を掲載。またガスタービンの項では、松本正勝名誉教授が、その技術の粋を、見所のポイントを挙げながら平易に解説されている。

なお同誌は、今後二回の刊行を予定している。創刊号は博物館に置いてあるの、外部者を交えての集会的際には、積極的に利用されたい。

精密工学会 春季大会

歴代最大規模で本学にて開催

会員数およそ七千名を有する精密工学会(会長/稲葉清石衛門氏)一九九七年度春季大会が、この三月二十五日から二十七日にかけて(微細から美彩まで)をキャッチフレーズに、本学にて開催される。

ちなみに同学会は、太平洋戦争終結三年後の一九四八年に結成。毎年春季には首都圏において、また秋期には地方での開催を旨として現在に至っているが、過去、春季における最大規模の大会は、一九九一年に早稲田大学にて行われたそれであった。

しかし、今回本学にて開催される大会は、申し込み件数六四八と、それを上回る規模。したがって、本大会の実行委員長を務める村川正夫教授をはじめとして、有賀幸則、古閑伸裕の両助教授など同学会に所属する約二十名の実行委員たちは、なんと本大会を成功裏に終わらせたいと、いま準備の仕上げに大わらわ。が、村川教授によれば「ひとつの大学で二十人もの精密工学会の会員数は大勢力。おかげで開催準備もどきどきおどろきなく推移しており、格別心配はない」とのことだ。

さて、同大会の概要だが、おもに①普通講演②オーガナイズドセッション(一覽リスト参照)③シンポジウムで構成される。

第一の講演は、本学(工業技術博物館)の鈴木昭館長が、同館の内容と活動状況に関して特別講演。第二のオーガナイズドセッションは、実に二十九にも及ぶ多様さだ。村川教授によれば「昨今は、医療機器や情報機器関連の分野が増え、きたのが特色」という。

第三のシンポジウムでは、(一)工学教育における生産原論(二)リアモーターにおける高速・高精度位置決め(三)光造形技術の可能性への挑戦という三テーマが議論される。

さらに本大会では、特別の目玉として、マイクロメカニズムイベントと付随して行われる「ジュニア理科工作教室」が用意されている。

●微細の世界

これは、小・中学生に会場に来てもらい、本学の中里裕一講師の指導でマイクロマシンを使った簡単なロボット作りを体験して頂くというもの。そしてマイクロメカニズム研究専門委員会の方々にも、この機会に子供達向けの講義を依頼。ひいては科学技術への関心を高めてもらう、と意図するものだ。

以上が本大会の概要だが、本号六ページに紹介しているように、新しい機械工学科実験研究棟および機械工作センターの竣工に際し、いわば「物作りの心臓部」ともいえる精密工学の大掛かりな学会が開催されることは、たいへん栄誉なことだ。大会開催の成功に向けて、学園挙げて支援の手を差し伸べたい。

▲宮沢研究室において研究開発された、液体中レーザー加工法(左)および慣用の大気中レーザー加工法(右)による直径わずか800ミクロンのダイヤモンド製の微小歯車の加工例。

年頭に寄せて

教職員皆さん、ならびに学生諸君、明けましておめでとうございます。

いよいよ学園創立九十周年の年の幕開けですが、まず昨年より準備をお願い致しました様々な記念事業を、各々の役割分担のもとに、ぜひ実のあるものにして下さるようお願い申し上げます。

さて、本学園では、ここ数年来、二十一世紀に対応すべく教育環境施設の整備に力を注いでまいりましたが、この三月末には、その集大成ともいえるべき機械工学科実験研究棟および機械工作センターが竣工の運びです。そして、たいへん名譽なことであり、たいへん名譽なことであるが、その竣工に花を添えて頂くかたちで、まことに大掛かりな精密工学会の春季大会が、開催されます。

それは見方を変えれば、「新しい革袋には新しい酒を」の伝

「創発」へ...



理事長 大川 陽康

技術者の育成に関する研究を開始しております。

それは、ひろく産業界や学界から有識者を招いて、ご意見やご提言をうかがい、本学園のさらなる発展に資する目的で発足をみた研究会ですが、それにちなんで、今年は、「創発」、つまり創造的に物事に取り組み、かつその成果や思念を積極果敢に外部に向けて発信して頂きたい、と念願致します。

理由は、申し上げるまでもなく、いま社会は、いわゆる「成熟化」のものと、メガ・コンベクション(大競争)時代に突入。従って、好むと好まざるにかかわらず、そういう時代の流れを見据えた英知を打ち出せ

ない人間や組織は、脱却の憂き目にさらされるを得ない状況にあるからです。

では、一体そのような世の流れに、どのように対処したらいいか……。

思うに成熟社会とは、私なりに申し上げれば「深い社会」のこと。ゆえに、そのような時代を生きるには、物事に対してお座なりな思考や姿勢で処するのではなく、深く、じっくり腰を据えて導き出された知恵こそが、求められるのであります。

「創発」をキーワードにして、この一年を過ごして下さい、つよく希望致します。

ついでながら、今年は、学生諸君にとって、念願の「スチューデントセンター」が、後援会や関係諸団体の手厚いご支援のもとに、完成致します。当所は、

おもに諸君の「心の糧」を育んで頂くための施設ですが、どうかそれを有効活用して、より幅のある人間性を養って下さることを望んで止みません。

まことに心の温もりを感じさせる事柄ですが、あの阪神淡路大地震の際にボランティア活動をした学生諸君が、奉仕活動の旨とするロータリークラブの青年部の活動を担う「ロータリーアクト」の会を、昨年末、本学に結成しました。また、クラブ活動面では、自動車部の諸君が「ホンダエコノパワー燃費競技大会」で、みごと六連覇を達成致しました。単なる机上の学問だけではなく、そういう社会に対する取り組みの姿勢。あるいは興味に即して、物事にあくなき挑戦心を燃やすのも、また真に幅のある人間性を育むために必要不可欠です。

本学園の記念すべき創立九十周年の年頭に当たり、皆さんのご健康ならびにご多幸を、衷心より祈念申し上げます。

■オーガナイズドセッション

※(括弧内はオーガナイザー)

- *バーチャル・ファクトリー [藤本英雄(名古屋工大)]
- *人工現実感 [金井 理(北海道大)]
- *マルチメディアとネットワーク [光石 衛(東京大)]
- *医療福祉工学 [土肥 建純(東京大)]
- *スケジューリング [青村 茂(東京都立大)/古川正志 (旭川高専)]
- *FAのオープン化 [神田雄一(東洋大)/松村 隆(東京電気大)]
- *デバイスの精密研磨技術 [三橋真成(NEC)]
- *微細放電加工 [古谷克司(豊田工大)]
- *放電加工の新原理とメカニズム [宇野義幸(岡山大)/薩田寿隆(神奈川産技総研)]
- *人工生命体(ALife)とその応用 [上田完次(神戸大)/鈴木恵二(北海道大)]
- *難削材料の機械加工 [鳴瀧滝則彦(広島大)]
- *高能率・高精度加工のための切削工具 [山根八洲男(広島大)]
- *生産原理 [小林 昭(HiMEP研究所)]
- *高速加工 [岩部洋育(新潟大)]
- *三次元形状測定 [笹島和幸(東京工大)/高増 潔(東京大)]
- *工作機械の高速化 [堤 正臣(東京農工大)]
- *超精密加工の新展開 [森 勇蔵(大阪大)]
- *超硬質膜 [戸倉 和(東京工大)]
- *外観検査 [石井 明(立命館大)/角田興俊(日本IBM)]
- *レーザ加工 [宮崎俊行(千葉工大)]
- *生産における自動化技術 [岡部佐規一(金沢大)]
- *ロボットの知能化 [新井民夫(東京大)]
- *協調作業ロボット [大隈 久(中央大)]
- *ロボットの分散制御 [浅間 一(理化学研)]
- *精密・超精密位置決め [大塚二郎(静岡理工科大)]
- *マイクロモーション実現技術 [板生 清(東京大)]
- *知能化生産システム [井越昌紀(東京都立大)]
- *生物を扱うマシン・テクノロジー [伊東明俊(東京電 気大)]
- *超高速研削の現状 [大石 進(青山学院大)]



大会開催ポスター

微細からマクロまで

就職戦線'96

求人件数、前年度比十一%の増加
人格面の資質が採否のカギ

バブル経済の後遺症から脱しきれず混迷が続いている中で平成八年度の就職戦線は始まった。

本年度の卒業予定者は、八九九名であるが、その中から大学院進学者、家庭に就事する者、専門学校へ進学する者等を除いた七六三名が平成八年度の就職希望者である。

それに対して、本年度の求人企業件数は三、四三二件（平成八年十二月十二日現在、以下統計数字は同じ）に達し昨年より約一％の増加であった。この求人件数は文系・女子大学等にすれば羨ましい数字であろう。だからと言って本学の就職戦線が平穩であったわけではない。どの企業においてもベテランの人事担当者の学生を見る目は厳しさを増しており、正確な自己分析、企業研究がなされていなければ内定を得ることは期待できない。

ここに、自己分析がいかに大切を示す事例がある。電気電子工学科のA君は、電子機器関係の上場会社を受け最終の役員面接で、ある役員から「君の得意な物は何か」と問われた際にA君は躊躇することなく「語学だけが得意でございませう」と答えたそうだ。

このことが役員に好印象となり内定を得ることになったわけであるが、後日、本学を訪れた採用担当者によれば「語学は不得意であるが、他は得意なはずである」と判断されたことが採否を決定する際の重要な要素になっていたとのこと。

希望する会社を選び出し、自分なりの検討を加え、何回も会社訪問を繰り返し、社風に触れ、人事担当者から聞いた経営方針、雇用条件等を加味した上で入社試験を受ける会社を絞り込むといった正攻法の就職活動は大半の学生はとっている。しかし、建築学科の女子学生の中には、希望していた会社が技術系の女子の採用が無いにも関わらず果敢に挑戦し内定を獲得した素晴らしい人もあった。

この女子学生は、結果を



然、内定までには面接の回数も回を重ねることになる。また建築会社によっては限られた時間内で課題を与え、図面を仕上げさせる会社もあった。

では、そのように、さまざまな曲折を経て、内定を獲得した会社の満足度では大変満足しているが、三〇％、満足四七％と高い満足度を示していた。

また、内定を得た会社を、選択した理由の問いには、半数の学生が会社の知名度や安定性よりも、成長性や将来性に賭けて会社を選んでいる。この数字から、未知な分野に挑戦して行こうとする逞しさと、生産現場に固執してあくまでも技術者として身を立てて行こうという堅実な姿勢を窺い知ることができる。

将来の進路を決定する方法には、両親の意見に従ったり、縁故によるもの、また研究室の先生方の紹介で決まるものとさまざまな方法があるが本学の学生達は八一％が自らの意志で進路を決定していた。これは七年前の工業教育で培った専門知識を十二分に発揮する場所を確保することを最優先にして考えたうえでの決断であったからであろう。

また会社選択時に決め手となったものは、の問いに對しては、半数以上の学生が「就職課の資料による」と回答している。

つまり就職課の資料から、

学生相談室の開設

心身の健康を保つための
温もりのあるアドバイス

学生諸君が充実した学生生活を送るうえで、心身の健康を保つことは、最も基本的な要件の一つです。

しかし、悩みや困難に直面し、心の混乱をきたしている学生が、本学にもまま見受けられます。

こうした状態は、学習意欲を減退させ、各種の心理障害をもたらし、人間関係の中でトラブルを生じさせたり、時には衝動的な行為や自殺に走ることもあります。

本学ではこれまで、学生諸君の相談態勢として、保健体育センターの確立やアドバイザー、チューデント・アワー等の制度化を図ってまいりましたが、更なる整備の必要性を痛感し、本年十一月より「学生相談室」を開設いたしました。

相談員は、日比野路子先生（元滋賀県・静岡県立女子短期大学看護学科教授）相談日は、週一回（金曜日・十二時三十分～十六時〇〇分）

相談室は、一号館一階の一〇七号室。

留学生交流会に
十三名が参加!!

本年度で三回目を数える埼玉県学生生活連絡協議会主催の留学生交流会が、去る十月十二日、岩槻市の白大学で行なわれ、本学から十三名が参加!!

本年度で三回目を数える埼玉県学生生活連絡協議会主催の留学生交流会が、去る十月十二日、岩槻市の白大学で行なわれ、本学から十三名が参加!!

部活状況

体育団体

空手道の渡辺君、見事に準優勝

昨今、本学体育会の部活も活発化しているが、昨秋は左記のような成績を収め、本年のさらなる成果が期待される。

◆空手道部
渡辺 旬（情報工学科二年）第九回全日本理工系大学空手道選手権大会、組手個人、準優勝。

◆硬式野球部
東京新大野球連盟秋期リーグ戦で、三部より二部に昇格。

◆柔道部
第三十一回関東理工系四大学対抗戦で優勝、第三十七回全日本理工系学生柔道優勝大会でベスト6に。

◆体操部
関東理工系体操競技選手権大会男子団体総合、第二位。

◆軟式野球部
関東理工系大学ソフトテニス大会秋期選手権女子の部ダブルスで、小川美英江／宮川幸子（ともにシステム工学科二年）組が優勝。

部活状況

文化団体だより

◆写真部
十一月二十八日～十二月三日まで、春日部市のスタジオアルマにて、写真展「黎明展」を開催。

◆吹奏楽団
十一月三十日、春日部市民文化会館大ホールにて、第十三回定期演奏会を開催。

◆B Jフルバンドジャズサークル
十二月二十八日、宮代町進修館にて、第二十四回定期演奏会を開催。

◆その他、モダンフォークソングおよび芸能研究会が、本学学友会館にて、日ごろの錬磨を披露する。

物事に積極性を



システム工学科
3年生

●学生自治会中央執行委員会委員長——小此木 淳志

あけましておめでとう。ございます。

私は、この三年間、中央執行委員会の一員としてやってきましたが、今年から委員長という大変重要な立場になってしまいました。今まで以上に気持ちを入れ替え、この一年間を乗り切っていこうと思います。

入学当初は、学内のサークルや委員会の勧誘などには一切耳をかさず、たことだった。

理由は、つね日ごろの信条として「克己心」……つまり「何事に挑戦するにしても、まず自身に勝たなければいけない」という事を、つよく胸に刻んでいるからだ。それゆえ、仮に優勝を逃しても、自己満足に陥り、練習不足気味だったからだ。

が、この辺りが一味違うところ。彼はグラウンドに出られないハンデを、自宅での練習や体育館のトレーニング機器を用いての筋力アップをはかる努力を、己に課してもいた。だからその肩の強さを生かそうと転部し、投てき部門に専念した。そして、高三のとき宮崎で行われたインターハイの円盤投げで四位に入賞。本学の建築学科に進学して、やはり同工高で棒高跳びをやっていた大口浩司君（建築学科四年）ともども、陸

ひたすらアルバイトに専らだったアルバイトをする暇も無くなってしまいました。ですが、今、冷静に考えてみれば、これはこれで、大学生活を楽しんでいるのだと思いました。

また、委員会活動を通じて、他の委員会やクラブ団体の人と友達になれる、先輩を指示したり、相談にのったり等、他では体験できない貴重な経験が、私を成長させてくれた。

人それぞれ学生生活の楽しみ方は異なりますが、せっかく日本工業大学に入ったのだから、何か一つは思いに残るようなことを体験してほしいと思います。今年九十周年記念でもありますが、皆さんで思いに残るような一年にしましょう。

STUDENT
face '97



青柿 一茂君
(建築学科4年)

■関東理工系大学対抗で
やり投げで大会記録を樹立!!

澄み切った初冬の空気を切り裂くように、槍がぐーんと伸びて、グラウンドの芝生に突き刺さった。

記録は六十三メートル、十六歳の大会新記録。さる十一月十六日、埼玉県宮上競技場で開催された（第二十八回関東理工系学生陸上競技大会）において、青柿一茂君は、みごと昨年に次いで二連勝をかざった。

それだけではない。同君は砲丸投げでも本学の佐藤博志君（システム工学科三年）に次いで、二位に入賞。第一面で報じているように、わが日本工業大学初の総合優勝に大きく貢献した。

槍投げ種目の大会記録は、昨年、自身が投じた六十二メートル二十四センチ。従って、青柿君にとつての喜びは、「優勝を果たしたこともさることながら、まず自身に勝てたこと」だった。

理由は、つね日ごろの信条として「克己心」……つまり「何事に挑戦するにしても、まず自身に勝たなければいけない」という事を、つよく胸に刻んでいるからだ。それゆえ、仮に優勝を逃しても、自己満足に陥り、練習不足気味だったからだ。

が、この辺りが一味違うところ。彼はグラウンドに出られないハンデを、自宅での練習や体育館のトレーニング機器を用いての筋力アップをはかる努力を、己に課してもいた。だからその肩の強さを生かそうと転部し、投てき部門に専念した。そして、高三のとき宮崎で行われたインターハイの円盤投げで四位に入賞。本学の建築学科に進学して、やはり同工高で棒高跳びをやっていた大口浩司君（建築学科四年）ともども、陸

記録を更新できさえすれば、それでよしというのが、彼は、前述したように、青柿君にとつては、ひとしおの心構えなのである。

しかし、そう言うものの、昨年、自身が投じた六十二メートル二十四センチ。従って、青柿君にとつての喜びは、「優勝を果たしたこともさることながら、まず自身に勝てたこと」だった。

理由は、つね日ごろの信条として「克己心」……つまり「何事に挑戦するにしても、まず自身に勝たなければいけない」という事を、つよく胸に刻んでいるからだ。それゆえ、仮に優勝を逃しても、自己満足に陥り、練習不足気味だったからだ。

が、この辺りが一味違うところ。彼はグラウンドに出られないハンデを、自宅での練習や体育館のトレーニング機器を用いての筋力アップをはかる努力を、己に課してもいた。だからその肩の強さを生かそうと転部し、投てき部門に専念した。そして、高三のとき宮崎で行われたインターハイの円盤投げで四位に入賞。本学の建築学科に進学して、やはり同工高で棒高跳びをやっていた大口浩司君（建築学科四年）ともども、陸

卒業後、青柿君は、越谷市内の不動産会社に就職する。理由は「その会社は建築物を手広く手掛けており、いざ家業を継ぐ際の修業になるから」とのこと。本学で「文武両道」の人間力を育んだ同君の健闘を期待したい。

(S)

台湾の南台技術学院が 友好促進のため来訪



教員同士の交流および 留学生の受入れを推進

本学は国際交流の一環として外国の大学等と学術協定を結び、国際的な貢献を社会に対して、果たしてきた。例えば、中国の華中理工大学とは十年以上前から、そしてタイ国の国立キングモンクット工科大学とノンブリ校とは本年十一月十五日に、学長がタイ国を訪問し、五年を過ぎた協定の再調印を行った。

▲来学された同学院の辛理事長と張校長（後列左）

台湾との交流においても台南の高雄市にある高苑工商専科学校とは、平成二年四月に学術交流協定を締結している。そして、今般同じく平成七年八月に学術交流協定を締結した南台技術学院から、十月三十日辛理事長、張校長（学長）以下主任の教授等七名が来学し、大川理事長、神馬学長、広瀬教務部長等と友好を深めるとともに本学の先進的な施設・設備を見学した。

当技術学院は、台南市にあり、学生数八千名以上の大規模な工業・商業系の大学。教員同士の学術的な交流、紀要等学術論文の情報交換、留学生の受入れ等、今後の本学との協定による具体的な成果が期待される。

近事片々

日本工業大学第一期生として、昭和四十六年機械工学科を卒業。卒業研究は「切削工具の摩耗機構の解析」でした。卒業研究の指導教授は生産技術の実務経験豊富な故日上義雄先生で第一期生として格別の思い入れを受けて社会人になりました。

キャンパスは建設の途中にありましたが、教員も職員も学生も一体感で暮らされておられ、今から思えば、黎明期であればこそ得られた一体感であったと思います。

この時期、全国的に学生運動が高まり、正門の外に機動隊が待機するなか卒業式を迎えました。

私は日上教授の教示を受けて、卒業研究が活かせる職種のある企業を求め、神奈川県小田原市の（株）園池製作所に就職。切削工具の設計・製造技術の仕事をしていました。同社が事業改革で切

OB便り



日本工具工業会の 技術員の活動も

田中 祐式
機械工学科（第1期生）
神鋼コベルコツール（株）勤務

私の専門領域は、機械要素の歯車を機械加工する歯切工具の設計と歯車の加工技術で、十九年近くが工場での勤務でした。

神戸製鋼に移ってから、東京・静岡・東京と転勤し、現在は同社工具事業部営業部門の直営営業技術グループの管理職を務めています。

は関東以北でしたが、自動車産業が生産拠点を海外にシフトするに連れて、バスポートが必要になってきました。

金属機械加工の分野でも空洞化は身近な問題で、工作機械のフルNC化に連れて、比較的短時間で技術の移転が可能だと言

高苑工商専科学校（台湾）の 記念式典に財務部長らが参列

平成八年十一月十六日、本学と学術文化教育協定を締結している高苑工商専科学校の創立七周年記念祝賀式典が挙行政され、安部農理理事・財務部長と倉島清隆経理課主任が出席した。

高苑工商専科学校は台湾第二の都市・高雄郊外にあり、五年制と二年制の課程を併設する日本では高専と同等のレベルに相当する学校である。同校は、電子工学科・建築工学科・土木工学科・建設系六科及び国際貿易科・応用外語科等文系四科の計十科を擁し、昼夜を

は頼もしいかぎりです。ここ数年から、業界団体である、日本工具工業会の技術委員に任命され、日本工業規格の原案策定などをするようになっています。

同時に日本歯車工業会の技術委員会にも出席するようになり、勉強の不足を今になって痛感している毎日です。

取り分け、工具工業会の技術委員の職は、かつて長田先生が歯車及び切削工具の技術者として実務を積まれていた時代に歴任しており、私にとっては卒業二十六年にしてやっとたどり着いた峠でもあります。

「歯切工具」とは言わないまでも、切削工具や歯車加工に携わる後輩が一人でも多くなることを心待ちにしています。

◆編集部よりOB・OG諸氏の本欄への寄稿をお待ち致しております。

創立90周年記念 募金ご協力をお願い

今般、学校法人日本工業大学創立九十周年を明年にひかえ、式典、シンポジウム、学生参加のイベント、年史の発行等の検討準備に入っております。

また、大学キャンパスにおける記念事業として「スチューデントセンター」の建設を計画いたしました。それは、課外活動の拠点施設としてサウンドスタジオ、ミーティングルーム、多目的ホール、ギャラリー、厨房等をもつ、学生が交流の場として多目的に自由に使わねことのできる施設です。建築面積七四〇・三五平方メートル、延床面積一、四〇〇・九三平方メートル、総事業費は四億四千万円です。

このたびの記念事業に、ご協力をお願いいたします。特段のご理解、ご協賛を



実行委員会は、企画委員会、式典委員会、年史委員会、建設委員会、募金委員会、記念事業検討委員会（第一部会、第二部会）に分かれ、平成七年から現在まで慎重に協議を重ねてきた。式典については大学キャンパスを会場に、平成九年十一月九日（日）を予定し、午前中は各記念事業での表彰式、大学キャンパス公開。午後は学園関係者、招待者を含めた祝賀会を行います。

学園創立90周年記念事業 本格的な活動態勢に!!

その他にも、記念事業として学園が計画した、五月末完工予定の「スチューデントセンター」もすでに着工した。また、学生諸君に積極的に参加してもらう文化・体育行事等は学生の代表とともに検討を進めている。

大きな国際的な記念事業としては、国際シンポジウム・パネル討論を、平成十年二月二十四日（火）に予定。会場を有楽町の東京国際フォーラムホールに決定し「感性と工学」をテーマに実施したいと考え、基調講演者・パネリスト等の人選に入った。年も明け、さらに強力な募金活動を行う一方、各委員会とも、より具体的計画を策定することになる。

海外からの来訪

◆南台技術学院（台湾）
辛 文炳 理事長
張 信雄 校長

国外研修（11、12月）

- ◆加藤重雄教授（システム工学科）／出張先「アメリカ」／目的「第11回シンポジウム」／目的「第12回シンポジウム」／目的「第13回シンポジウム」／目的「第14回シンポジウム」／目的「第15回シンポジウム」／目的「第16回シンポジウム」／目的「第17回シンポジウム」／目的「第18回シンポジウム」／目的「第19回シンポジウム」／目的「第20回シンポジウム」
- ◆中村洋一教授（システム工学科）／出張先「アメリカ」／目的「第11回シンポジウム」／目的「第12回シンポジウム」／目的「第13回シンポジウム」／目的「第14回シンポジウム」／目的「第15回シンポジウム」／目的「第16回シンポジウム」／目的「第17回シンポジウム」／目的「第18回シンポジウム」／目的「第19回シンポジウム」／目的「第20回シンポジウム」
- ◆黒津高行助教授（建築学科）／出張先「ネパール」／目的「第11回シンポジウム」／目的「第12回シンポジウム」／目的「第13回シンポジウム」／目的「第14回シンポジウム」／目的「第15回シンポジウム」／目的「第16回シンポジウム」／目的「第17回シンポジウム」／目的「第18回シンポジウム」／目的「第19回シンポジウム」／目的「第20回シンポジウム」
- ◆波多野純教授（建築学科）／出張先「ネパール」／目的「第11回シンポジウム」／目的「第12回シンポジウム」／目的「第13回シンポジウム」／目的「第14回シンポジウム」／目的「第15回シンポジウム」／目的「第16回シンポジウム」／目的「第17回シンポジウム」／目的「第18回シンポジウム」／目的「第19回シンポジウム」／目的「第20回シンポジウム」



学生諸君は、後期授業が開始された九月二十日に駐輪場がアスファルトで整地され、自転車の整理・整頓のために頑張ってくれている四名の方に、気付けいたと思う。大学では、現在校内の実験研究棟建設工事が行われていることも原因し、前期までの乱雑な駐輪のやり方では学生諸君の安全性に問題性ありとの考えから、町のシルバー人材センターに相談をしたところ、早速、官代町から整理員の方々の紹介をいただいた。従前は比べものにならないくらい駐輪場には整然と自転車並んでいるが、町の協力に感謝したい。

黄色い帽子を被った整理員の方々も朝の八時半から一生懸命に自転車の整理・整頓のみならず、駐輪場の清掃までも行ってくれている。学生諸君

編集後記

◆新年明けましておめでとう。平成九年丑年の始まり。学園も創立九十周年を迎える記念の年となる。種々な記念事業が予定されている。しかしながら学生を離れた学園の記念事業がありえないことは自明である。そういう意味でも課外活動の拠点となる学生厚生施設「ステューデントセンター」の建設。そしてこれからは学生参加の体育・文化行事が沢山企画されていくこととなる。学生諸君の積極的なコミットを望むところである。

◆学術交流協定校タイ国・キングモンクット工科大学の祭事に、本学ソーラーカー第一号機が招待され、参加した。その様子は酒井茂紀教授のリポートにつまびらかだが、製作に携わった機械工学科二年・林正弘と電気電子工学科三年・林佳孝両君の活躍は、実践的エンジニアを目指す本学の教育方針の証としても特筆すべきである。

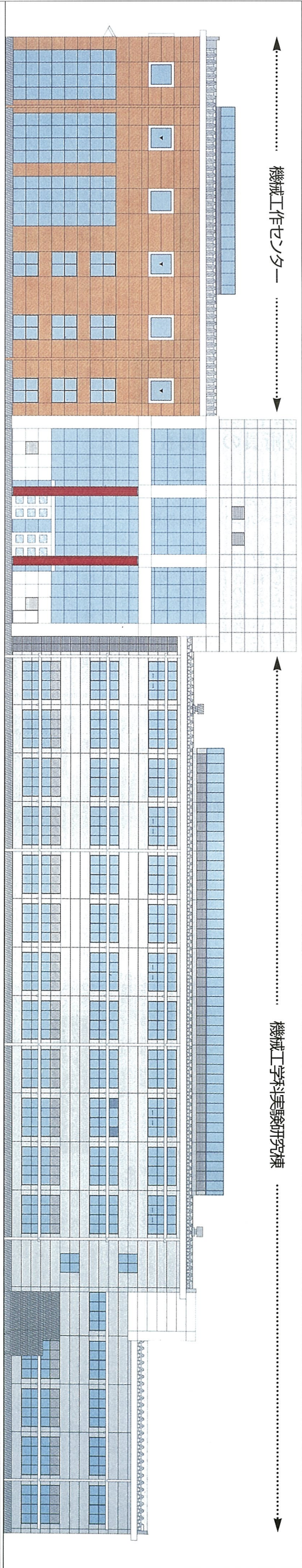
◆本年も学生諸君の幸を切に祈る。

(F)

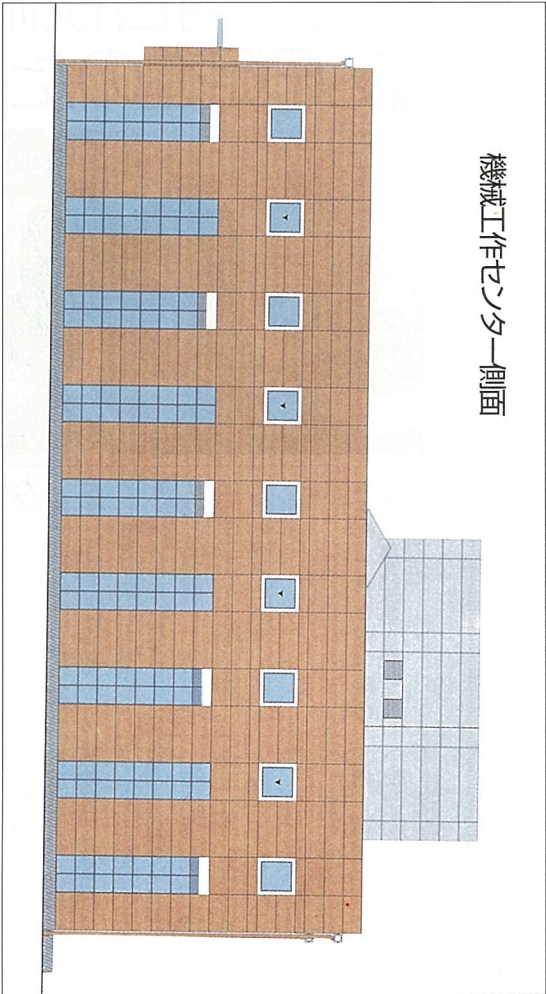
特報!!

機械工学科実験研究棟 機械工作センター

新築工事急ピッチ!!



機械工作センター側面



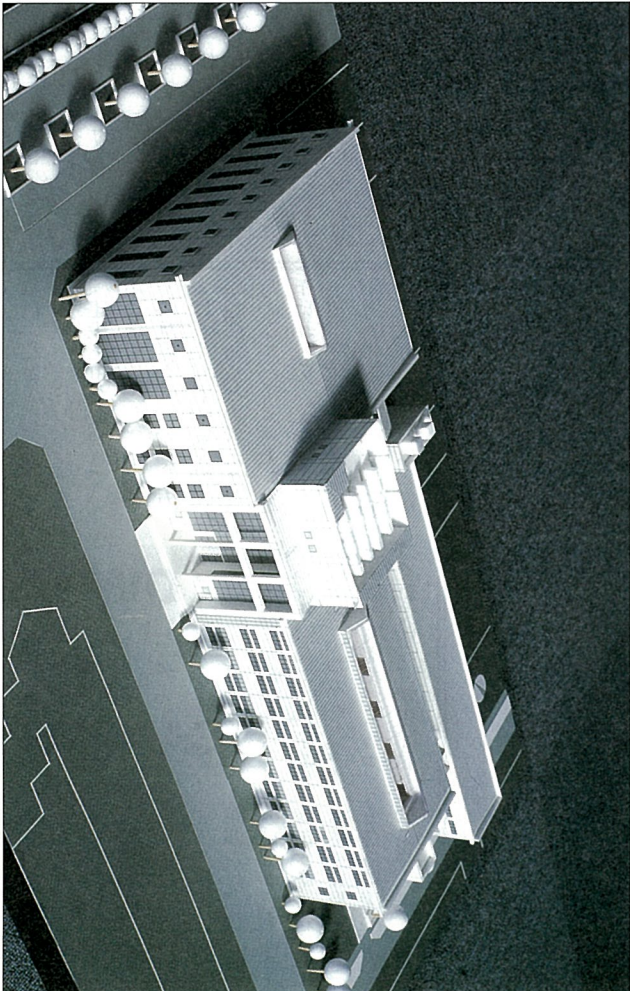
機能性に富んだ斬新な空間構造

昨今、本学キャンパス施設の充実ぶりは、まことに目覚ましいが、今春、またまたご覧のような新しい機械工学科実験研究棟、ならびに機械工作センターが誕生する。施設の特徴は、第一に機械設備や機器に見合った実験空間を形作るために、全体に天井が高くあしらわれていること。第二は、新しい機器の導入や研究目的にフレキシブルに対応できるよう配慮されていること。そして第三は、情報化に対応して、上階部分が、すべてコンピュータ対応の空間構造になっていることだ。

施設入ペースは、正面玄関左側の茶色部分が機械工作センター。そして、その右側の三階になっている部分が機械工学科実験研究棟として、形づくられている。

設計者は、一連のキャンパス施設を手掛けている建築学科の村口昌之教授で、設計に際して「機械工学の重厚なイメージと機能性を最重視した」とのことである。

なお完工は、第3面に詳報している3月25日から三日間にわたって本学で開催される《精密工学会春季大会》の直前がメド。従って三年生以下の学生諸君は、このフレッシュな学棟で十全に勉学できる幸運に浴することになる。



●建物概要
◆敷地面積：214,403.72㎡（全体）／建物面積：4,028.81㎡（本建築物）／延床面積：10,405.38㎡（本建築物）◆構造：鉄骨鉄筋コンクリート／規模：地上3階建／最高の高さ：24.695m